

「別府小学校の駒水ヤンセ踊り伝承活動の取組」

1 学校名

枕崎市立別府小学校

2 学年・人数

6年生（計25人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年10月～11月（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和2年11月19日（木）（本校体育館） 対象者：地域住民

令和2年11月20日（金）（本校体育館） 対象者：保護者

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

駒水ヤンセ踊り（こまみずやんせおどり）

(2) 由来

駒水に踊り伝えられる男だけの踊りである。きつね踊りとも言われており、狩衣姿にわらじばきできつねの面を冠り、面の頭髪は長く顔にかかっている。古式ゆたかな踊りで他にはあまり見ることのできない踊りである。戦前は別府地区の代表的な民芸として南方神社の例祭や枕崎の祇園祭には奉納されていた。

歌詞 かごしまの館 心よい館

御盃くたもる 琉球でやかれたる

イヤ、ヤンセがヤンセが

朝寝して起きて手水鉢が水見れば

わが御髪の花があるが不思議

ヤンセが ヤンセが

(3) 構成等

もともとは男性だけで構成されていた踊りであるが、これを機会に本校の小学生児童男女関係なく構成し、駒水ヤンセ踊りの学習を展開していくことにした。踊りでの主な役割としては、大小鐘役4人、太鼓役2人、踊り役で構成され、踊り手は列を作り、前後2人で1つのペアになって踊る。中には天狗やきつねのお面を着け、踊る人もいる。

はじめに、鐘役4人が鐘を鳴らしながら入場する。次に鐘を連続して鳴らすと太鼓の2人が先頭になって太鼓を担いで入場する。それに引き続き、踊り役が1人ずつ列になって登場する。踊り役はひととおり踊りを終えると、両脇に整列する。鐘が連続して鳴ったら、全員が手に持っている木ばちを置き、腰に手をあてて再登場し、最後は、歌い手の歌に合わせて手踊りを披露する。

5 保存会や地域との連携の具体

昨年度、別府校区の駒水集落からヤンセ踊りの踊り手不足により、学校で伝統芸能学習を行ってもらえないかとの依頼があった。そこで、今年度、学校と駒水ヤンセ踊り保存会が連携し、学校が中心となり、地域の「駒水ヤンセ踊り保存会」の全面的な支援の下、6年生の総合的な学習の時間に「駒水ヤンセ踊り」を位置付けた。6年生児童を中心に地域ぐるみで駒水ヤンセ踊りを伝承していく体制を整えた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

今年度からの初めての試みのため、学校と駒水ヤンセ踊り保存会、また、枕崎市教育委員会文化課や生涯学習課（学校応援団）との連携を図り、伝統芸能継承学習を展開した。その際、事前に保存会と綿密な打ち合わせを行ったり、用具購入等における予算確保、また、事前体験や練習に多くの方々の御協力をいただいたりしながらの取組となった。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



事前体験及び練習



地域発表会



保護者発表会



事後体験発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

今年から別府小学校の6年生が、駒水の伝統踊り「ヤンセ踊り」を地域の方々から受け継ぐことになりました。ぼくは、踊りの先頭で太鼓をかつぐ役でした。地域の方々のお手本の踊りを見たときは、「自分にも踊れるかな。」と少し不安でしたが、地域の方々の方が分かりやすく優しく教えてくださったので、少しずつ振り付けを覚え、踊れるようになりました。「覚えるのが早いね。」と地域の方がほめてくださったのがとてもうれしかったです。本番当日、たくさんの地域の方々に見守られながらきんちょうする中、今までの練習の成果が出せるように、みんなで一致団結して一生懸命踊りました。踊りが終わった後、地域の方が「とても上手だった。別府小の6年生が引き継いでくれてうれしい。」と喜んでくれました。中には、うれしさのあまり涙ぐむ方もいました。このヤンセ踊りの学習をとおして、ぼくは、地域の方々の伝統に対する思いやそれをぼくたちが次の6年生に伝統として引き継いでいきたいという使命感を感じることができました。このヤンセ踊りをとおして、地域の方々と交流する貴重な体験になりました。（6年児童）